

コーチングスキルの実践練習がたっぷりの2日間。リハビリ・糖尿病診療・がん診療・クリニックのマネジメント、それぞれの現場でコーチング活用している講師陣による講演です。

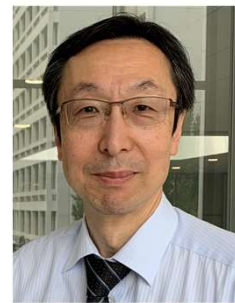
講演

## 医療におけるコーチングの有用性・効果について

出江 紳一

国際コーチ連盟プロフェッショナル認定コーチ  
鶴巻温泉病院 副院長 リハビリテーション専門医

患者さんとの対話やカンファレンス、申し送り、組織のリーダーシップ、人材育成など、医療では様々なコミュニケーションが交わされます。患者中心医療には対話が必須です。また緊急時に的確な指示命令が必要な場合もありますが、普段から自由な会話が交わされ互いを尊重する文化が医療の質の向上には必要であると考えます。相手の目標達成のための自発的な行動を促進する対話型コミュニケーションであるコーチングが医療においてどのように活用されているかを紹介し、それぞれの現場に取り入れる方策を一緒に考えたいと思います。



## コーチングの適用 ～コーチャブル・アンコーチャブル～

荒木 登茂子

臨床心理士  
九州大学大学院医療経営・管理学講座 元教授

医療現場でのコーチングは、相手の存在に寄り添い、being(あり方)も、doing(行動)も大切にして行動変容に導く。しかしコーチングがうまく機能しないアンコーチャブルな状況もある。からだの症状、パーソナリティ、コーチとの関係性などの視点を含めて、アンコーチャブルからコーチャブルへの可能性を検討する。

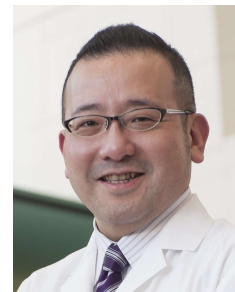


## 医者がコーチをつけるということ

大橋 健

国立がん研究センター中央病院 糖尿病腫瘍科 科長

コーチングを学び始めた当初、私は自分がコーチとして患者さんやスタッフにコーチングすることばかり考えていました。でも、本来コーチングはするものではなく、受けるものだったのです。私自身がコーチをつけて感じたことをお話ししながら、医療者がコーチングを受ける意義について皆さんとざっくばらんに考えてみたいと思います。



## クリニックにおけるコーチングを活用した1on1ミーティングの活用～バーンアウト防止と自己成長の促進～

河井 葉純

生涯学習開発財団認定マスターコーチ 日本コーチ協会認定メディカルコーチ  
(株)メディカルビジョンクエスト 代表取締役 一般社団法人日本看護コーチ協会 副代表理事

医療現場でのコーチングを活用した1on1ミーティングは、医療スタッフのバーンアウト防止と自己成長を支援する有効な手段です。心理的安全性を高め、早期にメンタル不調の兆候を察知するための方法、キャリア目標の確認と成長支援を促すフィードバック手法について解説します。1on1ミーティングを通じて、個々のスタッフの自己効力感を高めるかわりと、他職種連携と協働を促進する具体的なアプローチ例を紹介いたします。



## がん診療におけるコーチング実践

安藤 潔

国際コーチ連盟プロフェッショナル認定コーチ  
東海大学医学部血液腫瘍内科学 客員教授

2006年に「がん対策基本法」が施行され、患者・家族の視点が尊重されるようになったことをきっかけに、がん患者・家族のメンタル支援の重要性が認識されている。コーチングは「傾聴」「承認」「質問」を意識的に活用して有効な対話的コミュニケーションを創り出し、相手の気づきを促し、行動変容をもたらす、目標達成をサポートする。がん医療の中でコーチングは、1)病名告知、2)治療法の決定、3)入院中、4)社会復帰、5)外来通院中のグループコーチング、6)再発、7)終末期、8)がん家族支援、9)がん医療におけるチーム医療、などの場面で有効であり、がん患者・家族のメンタル支援のための普及が期待される。



## チームビルディングとコーチング

大石 まり子

国際コーチ連盟アソシエイト認定コーチ  
医療法人大石内科クリニック 理事長

10数名の多職種集団であるクリニックでは、メンバーの個性と関係性が職場環境を決定します。互いの違いを認め尊重するコーチングマインドと自由でアサーティブなコミュニケーションはメンバー間の関係性を改善し、協働するチームを育てます。当院での経験を通して、チームビルディングに活かすコーチングについて伝えたいと思います。



Coach

近藤 真樹

国際コーチ連盟認定マスターコーチ  
株式会社メディカルコミュニケーションポート 取締役

協賛: (公社)日本リハビリテーション医学会  
(株)メディカルコミュニケーションポート

※ 講演内容は若干変更となる場合があります。